

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	10月	13日	(記入者) 渡辺明彦	
取材参加者	東	石井	井本	神原	西田
	本井	山口	渡辺		
取材対象先	奈良市：天満神社の本殿				

所在地	奈良市七条一丁目2-16				
所有者(取材 対応者)名	天満神社 ***様、***様		連絡先 ***(***)様		
	***様(個人情報守秘)		PCアドレス		

取材申込	申込先・行政名など：氏子総代：***様				
------	---------------------	--	--	--	--

市町村 指定文化財	彫刻 軀	名称(指定年月日)			
	建造物 1棟	天満神社本殿 1993(平成5)年3月3日指定			

文化財指定理由	本殿は、小規模な三間社流造の建物。建立年代は桁・棟木・垂木に反り増しがある点や破風板などの様式から、少なくとも十六世紀に遡ると考えられる。現在本瓦葺であるが、もとは檜皮葺かこけら葺であった可能性があり、全体に当初の部材をよく留めており、市内に残る中世社殿の一つとして貴重である。				
---------	---	--	--	--	--

文化財の状況

防火対策	設備・対策・点検・通知方法	記入者の感想
	以前から設置されている火災報知器や消火器に加え3年前には防犯カメラが設置され、防火・防犯対策が行われているとともに、消防署から毎年電気系統の点検を受けられている。	十分に対策されていると思われる。

獣害対策	被害の有無・対策など	記入者の感想
	鹿などによる獣害の報告はないが、本殿の一部の白蟻被害には既に対応されている。今後の対策において資金面などの課題があるとお聞きした。	白蟻対策は建造物全体に及ぶ可能性があるため、その対策には種々の面で困難が予測される。

保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	日々の清掃をはじめ、すべての管理は氏子総代と数名の役員により行われている。長年に亘り夜間施錠されていたが、3年前から24時間公開されると同時に防犯カメラやトイレが設置され、参拝者の増加に繋がっていることをお聞きした。建造物や境内の補修・修繕や例祭の開催にかかる諸費用は一部奈良市からの援助があるものの、大半は氏子の年会費や地域住民の寄付により賅われている。				
--------------------------------	--	--	--	--	--

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

氏子総代を含む役員など、熱意のあるごく一部の人により文化財が守られていることが実感されるとともに、少子高齢化に伴う氏子の減少に加え、歴史的な文化財を保存・継承するという意識の低下を不安視されていた。しかし防犯カメラを設置するという英断のもと、24時間公開に踏み切られたことが参拝者の増加に繋がったとお聞きし、近隣の社寺を訪問した観光客に菅原道真公所縁の天満神社を宣伝することも方策の一つになり得るのではないかと考えられた。					
---	--	--	--	--	--

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	10月	13日	(記入者) 渡辺明彦	
取材参加者	東	石井	井本	神原	西田
	本井	山口	渡辺		
取材対象先	奈良市：天満神社の本殿				

<写真撮影許可済>

文化財指定名 天満神社本殿

天満神社本殿 (正面)	天満神社本殿 (左右側面)	
		
参道からの眺め	祭神	

		
参道から(鳥居の奥に拝殿)	解説掲示板	祭神三像

文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域の歴史や特徴を記入
<p>本殿は三間社流造・本瓦葺で、正面と両側に縁をつける。細部に桃山時代の様式がみられ</p> <p>この時代の建築と考えられる。祭神三座はいずれも木造神像(天神像、蛭子像、兩宝童子像)で、台座裏に1574(天正2)年の墨書銘が記されており、現在は奈良国立博物館に寄託されている。</p>	<p>「天満神社の節社由来」によると890(寛平2)年に菅原道真公が当村在家来訪の際に、ご自身の木像を創作され、994(正暦4)年にこの像を祭神として創建されたと伝わる。主祭神は菅原道真公で、相殿に蛭子命と天照大神(兩宝童子)が祀られている。本殿の左手に境内社三殿が並び、八坂神社(素戔鳴尊)・八重垣神社(櫛稲田姫命)・服部老松神社(松雄神・梅雄神)の四神が祀られている。</p>